週刊「考歴民（これみ）」Ｎｏ27　2021.9.27

交野古文化同好会

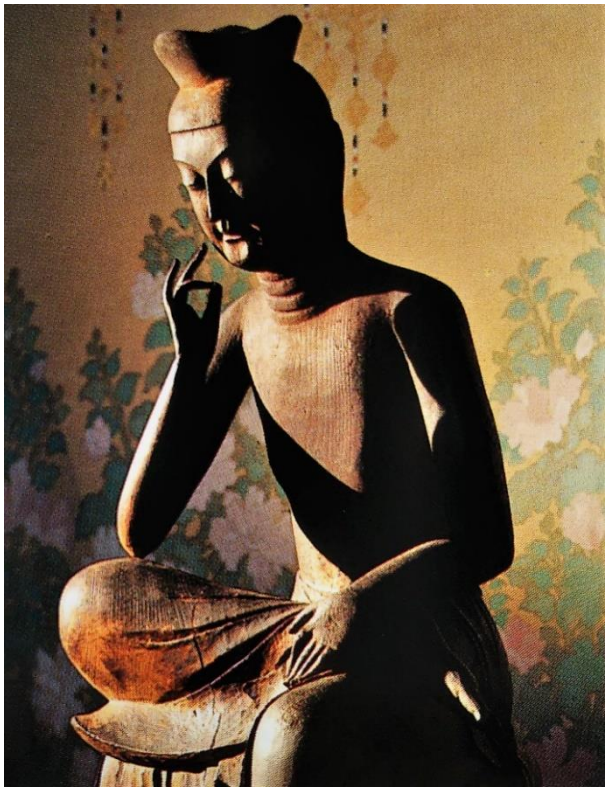
考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民（これみ）と名付けました。

=弥勒さまの魅力=

弥勒さまは兜率天（とそつてん）にいて、お釈迦さまが入滅後仏教がすたれて五十六億七千万年後、この世に現れ人々を救うとされる未来仏です。

慈（いつく）しみとあわれみがお互いに大きく働く「慈悲（じひ）」の仏さまであります。

信ずる心「弥勒菩薩」石上善応著



木造弥勒菩薩半跏像（広隆寺）

国宝第１号（昭和26年）指定

「ぼさつ」は病める人びとともに悩み、ともに悲しみ、ともに助け合う気持ちや、またどうにもならない人間のありように涙を流し続けねばならない菩薩、この世で迷える人びとを救おうと考えに考えておられる姿はやがて仏になることが約束されている。

弥勒菩薩さまは、第二の釈尊であった。

古来から、慈=与楽（楽を与える）、悲=抜苦（苦しみをとり除く）と考え、慈悲を抜苦与楽（ばっくよらく）といってきました。

石造弥勒菩薩坐像（神宮寺・石仏の道）

平成14年９月１日市条例

ブドウ畑を通り過ぎ、神宮寺集落に入る手前を交野山にむかっていくと「石仏の道」の標識があり約100㍍を上ると弥勒さんにお会いできます

総高180㌢、像高88㌢の弥勒仏坐像（浮彫）で交野山に向かって座っておられます。

光背は二重円相光背で、頭部には螺髪（らほつ）が表されて姿は如来形となっている。

首には三道を表す。

衣は偏袒右肩（へんたんうけん）にまとい、右足を上にして蓮華座の上に結跏趺坐（けっかふざ）する。

弥勒信仰には弥勒菩薩が如来となって地上に降りてくるまで修行を重ね、その教えを聴こうとする下生信仰と、死後、弥勒菩薩のいる兜率天に往生し、弥勒菩薩が如来となったとき共に地上に降りてその教えを聴こうとする上生信仰である。

弥勒下生までの時間

この世の年数で五十六億万年たつと、この世に下生されるということ。

「倶舎論」という仏典には、兜率天の１日は人間界での寿命は四百年に相当し、兜率天の人びとはこの天界での寿命で四千年であるということが記されています。一年を 360 日として考えますと

400 年×360 日×4000=576.000.000

五億七千六百万年となり五十六億年とはとてもなりません。

五十六億七千万年が口調に良いため、一般にいわれるようになったかもしれません。

五億七千六百万年でも、五十六億七千万年でも、日本人は同じように考えていたのではないか、

私は 567 と覚えていました。

首の三道

優しさ、素直さ、温かさ

これだけ整っておれば最高!

仏教では見・修・無学といわれています。

見…ありのままを見る、よこしまな心を捨てる

修…教えを学び修める

無学…もうこれ以上、学ぶことがない

菩薩の眼は、慈しみに満ちつつも、人びとの醜さや嘆きをともに愁え、ともに悲しみながらも微笑をうかべておられるのです。

像容は右腕を前に出し曲げ、掌を外向けに開く施無畏印、左手は膝の上で掌を内におく触地印の印相を結ぶ。左手を伏せてるのは、まだ修行中なので、人びとをどのような方法で救うのか考え中で、手の内はみせないという。

みなさまは、仏に向かって、少しでも頭をさげたことがあればその人は必ず仏になる縁がある。

ましてや手を合わせ、一度でも仏を念じ拝む人は、必ず次の世で弥勒の世界に生まれるであろう

菩薩の名は、人びとのこの世における悲しい姿に共に涙し、共に悲しみ、心を一つにした「慈しみ」の象徴であり、生まれ変わっても、代々常に慈しみの心を持ち続けてきたというのです。

まずは行ってみよう菩薩さんに会いに!

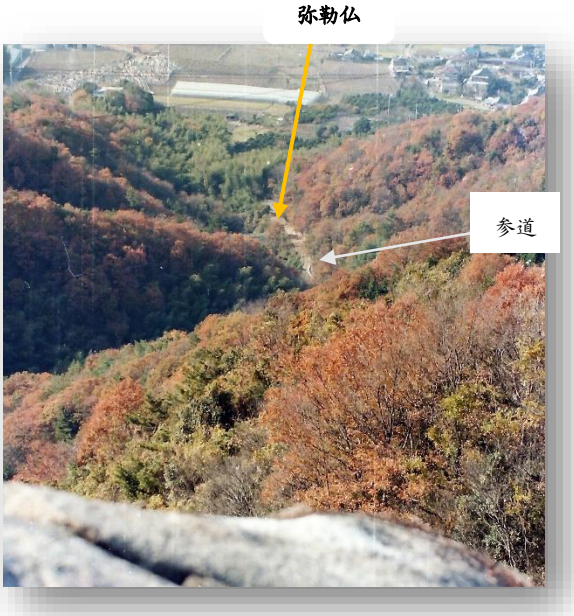
訪れて、一人静かに座って対面しているとき、このやさしいみ仏がきびしい顔に見えたとき、いくら近くに遠くに、横へ行っても変わりません。

原因は、きつく見えたときの自分の精神状態にあったことに、み仏は少しも変わっていないのに拝む側の心のありようによって、怒っているようにも、泣いているようにも、喜んでいるようにも見えてくるのです。

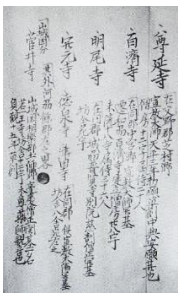
そこでみ仏との会話が始まっているのです。
仏の前では見栄を張らずに本当のことを声を出して話してみましょう。
ただし、周りに人がいないことを確認してからですよ（笑）。いらん誤解をまねきます。

参　考

弥勒石仏は岩倉開元寺（現在廃寺）の境域を示す傍示石と思われ、この道が寺に続く参道であったのでは。



この寺は興福寺の末寺であったという記録が「興福寺官務牒疎」嘉吉元年（1441）に見られる。麓から礎石も発見されている。



興福寺官務牒疎

礎石（歴史民俗資料館中庭）

法相宗本山の奈良興福寺は弥勒菩薩を宗の開祖と仰いでおり、これらのことから当石仏は、鎌倉時代の早い時期から岩倉開元寺は興福寺の影響下にあり、南都の弥勒信仰がここに及んでいたことを知ることができます。

神宮寺集落から

天平時代開元寺跡?

天平時代開元寺跡石碑

出土・開元寺石碑

次号は 10/4+